

4 LOH 症候群に関連している周辺症状に 役立つ漢方薬とは？

杉山産婦人科 新宿
木村 将貴

加齢男性性腺機能低下症候群(LOH症候群)は加齢に伴う男性ホルモン(アンドロゲン・テストステロン)の低下に基づく生化学的な症候群である。その症状は身体症状、精神症状、性機能関連症状から成り立っており、男性機能の重要な部分を損なう可能性がある。具体的な症状は身体症状として筋力低下、筋肉痛、発汗、ほてり、睡眠障害があり、精神症状として疲労感、抑うつ気分、イライラなど、また性欲や勃起機能低下などの性機能障害である。我々は、男性更年期外来において有意なテストステロン低下を伴わないが、上記症状を呈する症例に対して漢方による対処療法をおこなってきた。

過去に帝京大学泌尿器科の男性更年期外来を受診した59症例において男性更年期症状に対する漢方の効果を検討した。主訴は身体的要因が37例(62.7%)、心理的要因が13例(22.0%)、性機能要因が9例(12.3%)であった。治療方法別で治療なし15例(25.4%)、テストステロン補充療法25例(42.4%)、漢方治療19例(32.2%)であった。自覚症状の改善に関しては、改善ありが24例(54.6%)、改善なしが20例(45.4%)であった。漢方治療とテストステロン補充療法を比較すると、治療前テストステロン値は漢方療法群が有意に高値であった(421 vs.603, $P = 0.023$)。自覚症状の改善率はテストステロン補充療法群が優れていたが有意ではなかった(64 vs.42 %, $P = 0.127$)。使用された漢方治療は多かった順に(重複あり)、補中益気湯が12例、加味逍遥散が5例、柴胡加竜骨牡蛎湯が3例、桂枝茯苓丸が2例、八味地黄丸が2例、半夏瀉心湯と四君子湯が1例ずつであった。

また今回のワークショップでは、男性不妊外来における漢方治療の有用性についても検討する予定である。過去の報告では精液所見が不良である不妊男性は、一般的に血漿テストステロン濃度が低いとされている。またその中には性機能が低下している症例も散見される。漢方の精巣機能に与える影響は不明な点も多いが、特発性造精機能障害に対する漢方治療は、経験的治療として以前より広く行われてきた。杉山産婦人科男性外来では症状や体質に合わせて数種類の漢方を使用している。具体的には、身体的な疲労がある場合は補中益気湯、十全大補湯、人參養榮湯などの補剤を、精神的な疲労が著名な場合は柴胡加竜骨牡蛎湯や桂枝加竜骨牡蛎湯、年齢的な衰えを補う場合は八味地黄丸を考慮する。また精液中に白血球を認めるような膿精液症に対しては抗生剤の投与とともに柴苓湯、長時間の座位で慢性前立腺炎が疑われる場合はセルニチンポーレンエキスに加えて桂枝茯苓丸を考慮している。